南紀の秀渓・立間戸谷を訪ねて　１１月２３（月）天候：晴

コース：登山道入り口(7:50)～林道歩き～源助滝(8:20)～二俣(9:20)～屏風滝見学(9:30-9:40)～牛鬼滝(10:10-10:15)～植林小屋(12:20)～子の泊山(13:50-14:10)～桐原登山口(15:10)

メンバー：ＡＴ　ＲＴ　ＩＯ　ＫＯ

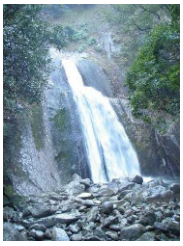
プロローグ；今回計画した立間戸谷から子ノ泊山(906.7m)へ至るコースは、次々に出てくる滝の景観が素晴らしく、滝好きな人には堪らないであろう。最後の 1000m 程続く”ナメの廊下”も素晴らしかった。さらに”子の泊山”の山頂に立てるのも魅力的であり、私の山のプロセスに合った条件を備えていた。山頂からの熊野灘の眺めもよく、ぜひ訪問をお薦めしたい沢である。南紀にもいい沢があることを改めて認識した。

ところで、子ノ泊山は十二支のうちの子(ね)の字を持った山として知られている。子(ね)年に因んで本来は昨年登ればよかったのかも知れない。昨年の元旦に、仲間のT夫妻が登ろうとしたそうであるが、大晦日にご主人が飲み過ぎて断念したとのこと。さらに(泊)の字を当てているのは、港のことを“泊まり”とも呼ぶので、新宮港と関係があるのかも知れない。山名の由来を紐解いてみるのも面白いかも知れない。ただ、残念なのは山頂直下まで林道が延びており、山肌が結構荒れていた点である。

行動記録；登り始めは登山道を辿り、途中、岩の下を潜ったりして歩いて行くと、道はきつい登りとなり、源助滝の標識があるところに出る。ここから滝見物に河原まで下降して往復する。

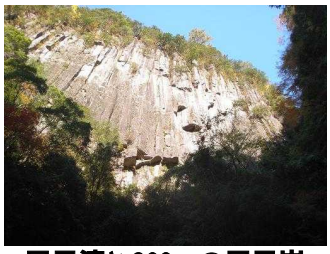
この先も登山道を辿り、記録にあるキャンプに最適な大きなケヤキの木がある場所に出た。

入渓地点


源助滝

立派なケヤキ

これより少し登ると屏風谷との二俣に至り、本流には数 m の滝がかかっていた。この滝の前にザックをデポし、屏風滝を見学するため往復した。屏風滝と 200m の屏風嵓は紅葉と岩壁と滝がマッチングし素晴らしい景観を構成していて感動させられた。昨夜の雨によって水量が増していることも見物に好都合であった。

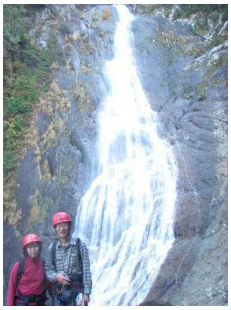

屏風滝と 200mの屏風嵓

本流の数mの滝

本流の数メートルの滝はすぐ右のフィックスロープが張ってあるところを、立ち木をつかみながらよじ登る。続いて 70m 程の牛鬼滝を見る。この滝も豪快で素晴らしい。

牛鬼滝は右から巻いたが、最初、行く手を岩壁に遮られルートファイディングに少し時間を食った。ルートは岩壁左側に踏み後があり、赤テープも一カ所付けられていた。

これより先も、中華ナベの淵から 15m の斜滝と続き、これまた素晴らしい景観が続いていた。


牛鬼滝→

中華鍋の淵

←15mの斜瀑

15mの斜瀑は滝のすぐ右を巻き、しばらく歩くと次に 50m の滝が出てくる。さらにその前方には大岩壁と 25m の滝が見えてくる。ここもまた素晴らしい景観である。

25m の滝は先程の右斜面に付けられた巻き道を使って登る。25m の滝の上には 10m の斜滝があるので、巻き道から一旦下りて見学した。滝の直登は難しそうであり、結局巻くことにした。

次に、巻き道から 10m の斜滝の落ち口に下りると前方に 40mの滝が出てくる。右から巻くと岩尾根があり、高度感満点でスリルもあって面白い。岩尾根からは熊野の山々がよく見えた。

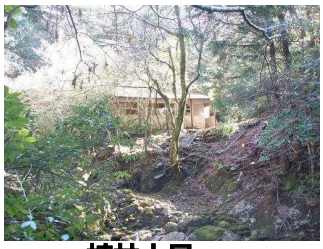
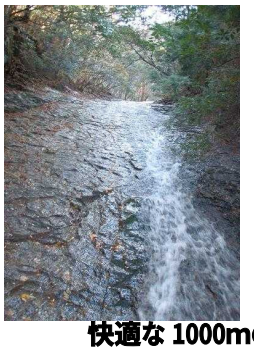
100mの嵩　　10m の斜滝

左から 50mの滝、続いて 25mの滝

岩尾根を登り、左手の踏み跡を下ると、5m ほどの滝を見てナメ床に降り立つ。その後しばらく歩くと植林小屋のある二俣に出た。ここの二股は左股（向かって右側）にルートを取る。これよりしばらく歩いていくと、再び二俣に出合う。此より先は、1000m続くナメを求めて右股(向かって)左側）にルートを取る。

1000mのナメは歩きやすい傾斜で構成されており楽しかった。最後は沢を離れ、右よりに潅木帯を登っていくと林道に出た。これより林道を左にとり、しばらく歩くと右手に山頂への登山道があり、これを辿って子の泊山の山頂に立った。

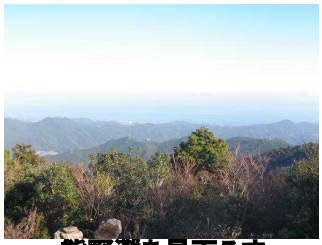
山頂にて、しばらく熊野灘などの景観を楽しんだ後、車のデポ地である桐原登山口に降りた。

植林小屋

岩尾根　　快適な 1000mのナメが続く

林道に出る



熊野灘を見下ろす
薄く写っているところが海岸線

子の泊山頂上
ネズミのイラストがあった

桐原登山口
車が 10 台ほど駐車できる